

## 請願文書表

受理番号	請願第3号
受理年月日	令和3年11月15日
請願者の住所、氏名	住 所 滋賀県野洲市〇〇〇〇 代表者 〇〇〇〇
請願件名	野洲市における子どものマスク着用の自由意思尊重に関する請願
請願要旨	<p><b>【請願趣旨】</b></p> <p>2021年6月に野洲市教育委員会教育長西村健氏との面談および、野洲市議会 令和3年第3回定例会（8月）本会議 田中陽介議員の一般質問への答弁において同氏は「マスクは強制ではない。保護者や子どもの希望で外すことができる」と明言されました。</p> <p>しかし、子どもたちは先生や大人に「苦しかったらマスクを外しなさい」と指導されつつも、外したらお友だちと話をしてはいけない、外している自分だけ別の部屋へ行かなくてはならなかったりと、実際には子どもたちにとってマスク着用は強制されていることと同じ状況です。</p> <p>お友だちに注意されることもあるようで、呼吸が苦しくても、口の周りが不快でもマスクを我慢する子がほとんどです。マスク着用に頼った感染症予防対策を再検討し、子どもたちの自由を回復してください。</p> <p>野洲市が管轄する保育園、幼稚園、小・中学校、学童、支援センター等の子どもに関わるすべての大人たちへの情報周知と、屋内外でのマスク着用について子どもたちの自由意思の尊重を求めます。</p> <p><b>【請願事項】</b></p> <p>●自ら考える大人の姿を見せ、子どもが「自分で考えられる力」を</p> <p>私たち大人は、子どもたちに様々な科学的知見があることを示し、その中で子どもたち自身がどう対処していったらいいか考えられる力を身に付けられることこそが、これから子ども</p>

もたちが学んでいかねばならない大きな力です。マスク着用をすること、しないこと（子どもにさせること、させないこと）のどちらかを一方的に非難するつもりは全くありません。するなら、なぜするのか？しないのなら、なぜしないのか？の理由を考えることが大切です。

結論に答えはなく、どちらであっても真剣に考えたものは尊重されるべきです。

咳が出たり体調が思わしくない時は、自分で考えてマスクを着用したり（咳エチケット）、休養をとれること。周囲の人たちに思いやりを持ち、自身でどうしたらよいか考えて行動できるよう、大人は見守っていきましょう。

子どもは大人の模倣をします。

様々な考え方がある中で、私たちすべての大人は、思考停止にならず常に新しい情報を取り入れて、リスクを考慮し、最善の行動がとれるよう自ら考える姿を、まず子どもたちに見せなくてはなりません。

●症状がない健康な児童にまで マスク着用を徹底させる必要はありません

現在の感染症対策は、大人の感染症対策をそのまま子どもたちに当てはめたものです。

この新型コロナウイルスが流行し始めた頃は得体の知れないものでしたが、この2年ほどで随分様子が見えてきました。

・子どもたち（10歳未満及び10代）の重症化は「極めて稀」だということ。

・無症状の人が他人に感染させるという論文は見つからないこと。

1 回目の高齢者ワクチン接種率79.7%（厚労省7/18 発表）となった今、子どもたちには、（15歳未満の罹患率が高い）季節性インフルエンザ予防対策同様の対応をしていけばよいと考えられます。

徹底するのはマスク着用ではなく、換気・手洗いうがい・咳エチケット（体調が悪ければ休む）です。

（厚生労働省の感染症対策としては、咳エチケットや手洗いの実施、症状がある場合は外出を控えることとしています。）

●早急な判断を求めます

大人社会でも今後どうコロナ感染症対策を緩和していくのか課題はありますが、子どもたちの議論は早める必要があります。なぜなら、2020年の児童生徒の自殺者数は479人と過去最多。2019年までは微増傾向だったのがコロナ禍となった2020年は前年比140人増と急増。8月の児童生徒の自殺者は64人で、前年同月比で約2倍。予防対策だけが原因ではないと思いますが、無関係とも言い切れないからです。

（参考：2002年厚生労働省と警察庁によるデータをもとに文部科学省が「コロナ禍における児童生徒の自殺等に関する現

	<p>状」としてまとめたもの  <a href="https://resemom.jp/article/2021/02/18/60539.html">https://resemom.jp/article/2021/02/18/60539.html</a>)</p> <p>◆教育委員会の方針を、各学校や保育施設等へ伝達し実行してください</p> <p>〈野洲市議会 令和3 年第3 回定例会（8 月）本会議 田中陽介議員の一般質問より〉</p> <p>教育長西村健氏の答弁では「正しく対処法を学び自分で考えられることが学校教育においてポイントである」「児童が判断できる年齢でない場合は『ほけんだより』などで保護者に理解検討を促す」「マスク着用ができない（しない）と判断した子への理解や学習（人権教育・多様性の尊重）を行っていく」ということを言及されています。</p> <p>しかしながら、10/19 現在の今まで保護者への理解検討材料としてマスク着用の危険性に関する情報は一切届いておらず、『中主っ子だより10 月』『ほけんだより10 月』では3 密回避とともにマスク着用が前提の感染対策となっています。</p> <p>最後に、世の中の感染症予防対策と、子どもたちの自由意思尊重、両者を天秤にかけたとき、身体的・精神的な成長段階における重要な時期を過ごす“野洲市の未来を担う私たちの大切な子どもたちの健康”をまず第一に考えた教育があってほしいと強く願います。</p> <p>ワクチンなどの問題も全く同じですが、少なくとも「皆がしているからする」という考えは、同調圧力ともなり、弱い立場である子ども達に大きなしわ寄せがいく結果になりかねません。</p> <p>議員の方々、現場の教育者の方々、保護者の方々とともに、健康で希望に満ちた野洲の未来をひとつひとつ築いていきたいです。</p> <p>（添付資料）萩生田光一文部科学大臣 行政文書不開示決定通知書  （添付資料）国立感染症研究所長 行政文書不開示決定通知書  （添付資料）マスクしてもしなくてもいいんだよ（みんなの笑顔を守る会）  （添付資料）中主っ子だより10 月号  （添付資料）ほけんだより10 月号</p>
紹介議員	田中 陽介
付託委員会	文教福祉常任委員会

## 請 願 理 由

### 【請願理由】

#### 【理由 1】

マスク着用で感染予防効果が充分あるとは言えず、また強制されるべきではありません。

1. マスク着用を義務付ける法律はない
2. 厚生労働省ではマスクは風邪症状がある人が外出する際にマスク着用を推奨しているのみ。無症状の人にまで、マスクを推奨する記述はありません。  
(参考：厚生労働省HP 国民の皆さまへ (新型コロナウイルス感染症)  
[https://www.mhlw.go.jp/str/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00094.html](https://www.mhlw.go.jp/str/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00094.html))  
(添付資料：国立感染症研究所の行政文書不開示決定通知書)
3. 文部科学省通知は、単なるお願いである  
※ マスク着用がコロナ感染予防に効果がある科学的根拠を立証する文書なし  
※ 無症状者が感染させる可能性があるという科学的根拠を立証する文書なし  
(添付資料：萩生田前文部科学大臣の行政文書不開示決定通知書)
4. マスク着用の可否の決定権は、保護者にある  
(マスク強制され、健康被害が出た場合の責任所在は学校になるのか)
5. マスク着用の強制は、憲法の基本的人権 (日本国憲法第11条、第97条) や刑法223条の強要罪に抵触する

#### 【理由 2】

マスク着用により起きている子どもたちへの健康被害、精神面に対する害を早急に解決しなくてはなりません。

##### ① 慢性的な片頭痛

二酸化炭素は脳の血管を拡張させる因子となるため、酸欠状態が長く続くと脳の血管の拡張が続きます。すると、その周囲にある触覚や痛覚を脳に伝える三叉神経が刺激され炎症を起こすことで、慢性的な片頭痛の原因となります。

##### ② 不安・イライラの増幅

セロトニンは、恐怖や怒りなどの感情をコントロールして精神を安定させる働きがある“幸せホルモン”です。脳に酸素が行き渡らないとセロトニンの分泌が滞るといわれており、不安やイライラが増幅されてしまいます。

##### ③ 免疫力の低下

全身の隅々にまで免疫細胞を運ぶためには、血流を良くしておくことが重要ですが、全身が酸欠に陥ると血流は滞ります。体温の低下とともに免疫細胞が運ばれにくくなり、免疫力の低下にもつながります。

生命の源である呼吸が制限され、本来吐き出してしまうべき雑菌やウィルスが長時間にわたり口の前に滞留することになります。これは「マスクをすればするほど免疫力を低下させ、種々の感染症に感染しやすくなる」と指摘する医師も数多く存在します。

(参考：公立学校共済組合のウェブサイト コロナ禍で急増?“マスク酸欠”を予防して心を安定させよう)

<https://www.kouritu.or.jp/kokoro/column/mask/index.html>)

#### ④ 集中力・思考力の低下

締め切った部屋で暖房をつけていると、頭がボーっとしてくるものですが、これも酸素不足の影響です。

脳の細胞に十分な酸素が行き渡らないと、集中力や思考力の低下が起こることが知られています。

#### ⑤ 呼吸障害

マスクは、人間にとって最も大切な、生命に関わる器官である鼻と口に常時フィルターを被せるものですから、呼吸への悪影響があることは明白です。マスクをして呼吸をすると、マスク内のガス濃度は大きく変化し、マスク内に滞留した低酸素・高二酸化炭素の空気が絶えず体内を行き来し、低酸素血症や高二酸化炭素血症を引き起こすというリスクが報告されています。

#### ⑥ 細菌・雑菌の繁殖

マスクの長時間の着用はマスク内の雑菌の繁殖を増大させ、口鼻の衛生環境を悪化させます。マスクで呼吸し続けると、マスク内外に自分が吐き出した雑菌や外気に混ざった雑菌の成分が滞留します。

これらが、繰り返し長期的に体内に再吸入されるということは、体内汚染の原因となります。

#### ⑦ ウィルスの溜め込み

マスクの表面にはコロナウィルスが7日間残存するという報告があります。マスクの汚染レベルは最大20万種類のウィルスを含むと推定されるという研究も存在し、「清掃前の床や便座よりも不潔である」ことを示す数値が出ています。

#### ⑧ 表情・感情の剥奪

人と人との会話、コミュニケーションにおいて、お互いの顔や表情を見ながら話すことは極めて重要です。1年半以上の長きにわたり、これが阻害され続けていることは、特に感受性が強く人格形成中の0～20歳の子どもたちにとって、コミュニケーション能力の発育に深刻な影響を及ぼすことが懸念されます。

#### ⑨ 感染予防にならない

残念ながら、マスクはウィルスを防げません。ウィルスやウィルスを含む小さな飛沫はマスクを素通りするからです。

感染症は飛沫感染だけではありません。私たちの身の回りの至るところにウィルスや雑菌は存在し、接触・媒介物・空気などにより人々は常にウィルスに曝露・共有しています。ウィルス感染を防ぐのは、回避ではなく『自己免疫力』です。

実際に顕在化している子どもたちの問題

・親による子どもに見られた症状

頻度が多い順に、頭痛 (53.3%) 集中力低下 (49.5%) 不快感 (42.1%) 学習障害 (38.0%) 眠気・疲れ (36.5%) 圧迫感 (35.6%) 呼吸苦 (29.7%) めまい (26.4%) 他にも失神 (20.7%) 遊びたくない (17.9%) 脱力 (14.7%) 短い意識障害 (2.2%) など深刻な症状も見られます。

・ 行動、情緒面の問題

多い順に、イライラ・過敏性 (60.4%) 幸せに感じる子どもの減少 (49.3%) 園や学校に行きたくない (40.4%) ととても深刻な内容です。続いて、落ち着きない (29.2%) 睡眠不良 (31.1%) 不安の発症 (25.3%) などとなっています。

・ とくに不安に関してフリーテキストによる内容は以下のもの

将来に対する一般的な恐怖、窒息することへの恐怖、コロナによる親戚の死への恐怖が最も頻繁。さらに、着用する・しないの両方による汚名 (いじめや中傷) の恐れなど

・ 多くの親は、顔の表情やアイデンティティが子供たちに認識されないことに強い危惧を感じている

・ 他に、マスクした人々に関連する悪夢や不安障害も見られた。

(参考) 子ども (18 才以下) のマスク使用による健康障害の世界で初めての論文

<https://www.researchsquare.com/article/rs-124394/v2>

を本間真二郎医師がまとめたものを抜粋。

ドイツでのオンラインによる調査で、開始後1 週間 (2020 年10 月26 日) で20353 人

(主に親) が登録し25930 人の子どものデータを集計

布マスクが65%、サージカルマスク (外科用マスクで通常の市販のマスク) 21%でした。

マスクの着用時間の平均は270 分 (4 時間半!) で、年齢と共に長くなります (幼稚園90 分、小学校240 分、中学校・高校360 分)